

北社会ニュース 49号

2008年11月25日

発行者：鈴木壮夫（高11回）

(1) 本日、第267回 北社会

講師：山本敏晴氏（高36回）特定非営利活動法人 宇宙船地球号 事務局長

テーマ：“地球温暖化、しずみゆく楽園ツバル”

地球温暖化、しずみゆく楽園

ツバル



百丈10周年企画 山本敏晴写真展

TUVALUは地球の未来そのものなのだと山本氏は語る。同氏が昨年訪れ、記録した映像とともに貴重な体験をお話しいただきます。NHK・TV等メディアも山本氏の活動にスポットをあてている。9月に同氏のご好意で私のそば屋の3階のギャラリーでこの写真展を開催し、老若男女にお越しいただき、地球温暖化に具体的な関心を抱いていただいていると思っております。庄司恒一・二高校長も北社会での講演の翌日（9月17日）にお立寄りいただき次のメッセージを会場のノートに書いていただきました。

「物質の豊かさを求め続けてきた人類のツケがこのような形で

表れてきたのです。生徒達にも伝えたいと思います。頑張ってください」と。

尚、写真集は小学館より発行されております。定価1575円です。

(2) 次回以降の北社会

1月27日（火） 新年会－総会及び各位の抱負をスピーチー

2月：開催日未定

講師：山下健二氏（高8回）同窓会副会長

テーマ：二高同窓会活動について事務局と同窓生の意見交換その他。

(3) 青山史朗氏(87才)和賀井敏夫氏(84才)、両大先輩からのお便り。

米寿をお迎えになった青山先輩からは「学徒出陣の思い出」、合併石巻市で初の名誉市民になられた和賀井先輩からは11月8日に同市で開催された特別記念講演「創意無限～超音波診断研究50年を回顧して～」を報じた“石巻かほく”をお送りいただきました。ご高齢であるにもかかわらず、私達後輩へのご配慮、心からありがたく頭が下がります。そして、大きな勇気もいただきました。別紙に纏めましたのでご覧下さい。

(4) 11月20日、母校訪問。

高11回の小さな同期会(仙台ピンピン会)参加のため19日夜仙台に戻りました。夜、8時前なのに駅頭には客待ちタクシーがわんさと並び、乗車した地下鉄はがら空き、そこかしこのビル建築ラッシュ等々、仙台は大丈夫か?と思わず口に出しました。翌朝20日、仙台は初雪でした。母校を訪問、庄司校長先生から一時間超最近の状況をお聞きしました。皆さんにお伝えしたいこと次の二点です。

(A) イートン校との海外交流について。

先ず、東京同窓会会場での交流協力金の募金、不足分の事後協力をいただき、やっと決算ができます。東京同窓会の皆さんのご協力に心から深謝申し上げます。くれぐれもよろしくお伝え下さいと話されました。そして、イートン校との本格的な交流が来年にもスタートする見込みになった。双方10人ずつの三週間という短期間ではあるが留学して研修することがほぼ決まった。11月18日、イートン校の責任者が英国から訪日、二高を訪れた。渡航費用その他は自己負担だが希望者が多数で今から選考することを考えて、頭が痛い校長は語っておられたが、特色ある海外交流が実践でき生徒のためにも良かったと。

(B) “越前 光”－えちぜん ひかる－さん初の女性生徒会長に選出される。

昼休みに新しい生徒会長が校長室に挨拶に来るといので待っていました。今、生徒数は約960名、その内女性は一・二年生で160人、男性候補との選挙の結果僅差ではあったが越前さんが当選したとのこと。槻木中学出身。ハキハキして気丈で意志が強そうな娘さんでした。槻木中出身だからかもしれませんが、いまどきの女子高生ではなく、私が在学していた50年前の市内ではなく郡部の娘さんでした。前向きにやるでしょう。

(5) 落合道夫氏(高14回)アパグループ懸賞論文・社会人の部第一席を獲得。

田母神航空幕僚長が「日本は侵略国家であったのか」と題した論文で最優秀賞を獲得、政府見解に反する内容で更迭され11月初旬マスコミを賑わしたことが記憶にあると思います。落合氏は「真の近現代史観」というタイトルで応募、社会人の部の最優秀賞を獲得されました。論文の内容は著書「大東亜戦争と日本人の課題」及び4月22日第261回北社会で講演いただいたもののダイジェスト版だそうです。12月初旬、アパグループから他の入選論文とともに単行本として刊行されるとのことです。落合氏は「長年の研究成果を評価してもらったことと広く内容が社会に知られる機会を得て有り難く思っています」とご連絡いただきました。関心を抱かれる方はご一読をお勧めします。

学徒出陣の思い出 いま米寿を迎えて

青山 史朗

私は神宮外苑に住んでいますので散歩には好適な環境にありますが、先日国立競技場のなかを歩いておりましたら偶然学徒出陣の碑を見つけました。

思えば今から65年前の昭和18年(1943)10月21日、我々学生の徴兵延期が停止され、全国10万の学徒が一斉に軍隊に入営することになり、その壮行会がこの国立競技場で執り行われたのです。

その日の朝、大学の武器庫から三八式歩兵銃を受け取り、足にはゲートルを巻いて校庭に集合し、教職員や在校生のバンザイの声に見送られながら、歩調をそろえて校門を出、そば降る雨の中を隊列を組んで国立競技場に向かいました。

すでに各大学の学生たちがひしめいて開門を待っていましたが、正直なところ学業半ばで軍隊の過酷な生活に入ることを思うといささか陰鬱な気分でした。

やがて軍楽隊の勇壮なマーチとともに、東京大学を先頭に校旗を掲げた各大学の行進が始まり、私たちも暗いスタンド下からアンツーカーのグラウンドに入った途端、まず目にしたのはスタンドをうずめつくす女学生の白い制服の大群で、われんばかりの喚声と拍手で我々の壮途を祝福してくれたのです。

雨水のたまるグラウンドの泥をはねをあげて行進しながら「あ、そうか私はこの人達を守るために命を捧げるのだ」と初めて思い当たり、ひときわ力を込めて地面を踏みつけて進みました。

東條英機総理大臣の激励の演説も感動的でしたが、何よりも胸を打ったのは、「生らもとより生還を期せず」と凛として言い放った東大学生代表の答辞でした。

そして12月1日、私は仙台川内の42部隊に入隊しましたが、そこにはひ弱な学生の虚飾をかなぐり捨てさせる厳しい訓練としごきが待っていました。

軍隊時代の体験は以前にも書きましたので省略しますが、昭和20年9月15日の夜、敗残の身を見渡すかぎり焼け跡の仙台に帰ってきました。

しばらくして二中時代の友人と会い、お互いの無事を喜びあいながら戦死者の名を拾いましたところ、なんと同期では48名、一学年4組で200名の1クラスが帰らぬ人となったのです。昭和15年卒業の40回生ほど被害の大きかったクラスは他にありませんでした。

今あらためて20代の生死を分けた数々のできごとを思い返しながらか、よくぞ生きてきたと運命の不思議さに驚きますが、これはひとえにわが子の無事を神仏に祈り続けた母の信仰のお陰だと納得しています。

20-10-21



次世代への伝言
——出陣学徒壮行碑に寄せて

昭和十八年（一九四三）十月二日、勸学
学徴集延期臨時特例が公布され、全国の大学
学校、専門学校、文科系学生、生徒の徴集を
止された。この非常措置により同年十二月
の学徒がペンを捨てて剣を執り、戦場へ赴
った。世にいう「学徒出陣」である。
全国各地で行われた出陣行事と並んで、
月二十一日、ここ元・明治神宮外苑競技場
は、文部省主催の下に東京周辺七十七校が
「出陣学徒壮行会」が挙行された。折からの
ついで分列行進する出陣学徒、スタンパを
した後輩、女子学生、征く者と送る者が一
て、しばしあたりは感動に包まれ、アジ
ニュース映画はこぞってその実況を報道し
九年にはさらに徴兵適齢の引き下げにより
文科系男子および女子学生も、軍隊に
生産に動員され、学園から人影が絶えた。
時流れて半世紀。今、学徒出陣五十周年
に当たり、学業半ばにして陸に海に空に、種
らなかつた友の胸中を思い、生き残った代
こに「出陣学徒壮行の地」由来を記して、
内外の若き世代にこの歴史的事実を伝え、
平和を祈念するものである。

平成五年（一九九三）十月二十一日
出陣五十周年を記念して
出陣学

2008.10.20

石巻市市政功労者並びに特別表彰者表彰式

入場無料!

石巻市名誉市民
順天堂大学名誉教授

「和賀井敏夫先生特別記念講演」
「創意無限」～超音波診断研究50年を回顧して～



三陸河北新報社

巻 研究50年の人生訓

石 市政功労者 表彰式 名誉市民・和賀井さん

合併石巻市で初の名誉市民になった超音波診断法の創始者、和賀井敏夫さん(八八)順天堂大名譽教授、石巻市出身の特別講演会が八日、市民会館であった。本年度市政功労者・特別表彰の表彰式を記念して開催。世界的に評価の高い画期的なエコー診断を確立した和賀井さんは、夢を実現するには努力を続ける意志が必要だことを訴えた。「創意無限」超音波診断研究五十年を回顧し



特別講演前に市民に気さくにあいさつする和賀井さん(右)石巻市民会館

合併石巻市で初の名誉市民になった超音波診断法の創始者、和賀井敏夫さん(八八)順天堂大名譽教授、石巻市出身の特別講演会が八日、市民会館であった。本年度市政功労者・特別表彰の表彰式を記念して開催。世界的に評価の高い画期的なエコー診断を確立した和賀井さんは、夢を実現するには努力を続ける意志が必要だことを訴えた。「創意無限」超音波診断研究五十年を回顧し

よう) 検査に超音波を利
用できないか模索に乗り
出した。しかし、「超音
波が人体に伝わるのか、
反射して画像になるの
か、無害なのか、世界に
前例はない。すべて手探
りで進めるしかなかっ
た」と述べた。

米国など世界では研究
成果を注目してくれたも
の、地味な実験を繰り返
す和賀井さんは医学界
で無視同然の扱いをされ
る不遇の時代が続いた。

夢を決してあきらめな
かった不屈の志が、最後
に開花した。和賀井さん
は「夢は大きくても、目
標を身近に置き気負わな
い。志を立てたら、道筋

をしっかり考える。失敗
は後で必ず役に立つ。一
喜一憂せず、おおらかに
可能性を信じること」な
ど、郷土の人たちに研
究から得た人生訓をアド
バイスした。

講演に先立ち、市は自
治、社会福祉、保健衛生
などの行政推進に功績の
あった市政功労者七十四
人、三団体を表彰。スポ
ーツや文化部門など全国
的な舞台で活躍した特別
表彰の九人の栄誉をたた
えた。

和賀井さんは一九八六
年に紫綬褒章と市民功労
章、二〇〇六年に日本学
士院賞を受けている。
(6面に被表彰者名簿)

石巻市名誉市民

和賀井 敏夫 氏

順天堂大学名誉教授



和賀井敏夫先生は、超音波診断研究を世界に先駆けて着手し、近年の医療において病気の早期発見や診断に欠かせないCT、MRI、PETなどの画像診断法の一つである超音波画像診断法を実用化し、日本医学界のみならず、超音波医学の世界的権威としてご活躍されています。

鈴木北夫様

ご挨拶ありがとうございます。

石巻市の名誉市民就任記念市民公開講演会の大役を委嘱果敢に担当いただきありがとうございます。同様の資料がご覧下さい。何より知事のご般市民とご交流を促すこと150名を前に大盛況に結構です。もしも、あなたも老人の立場から内は専らと心細い石巻へは、早稲田の先生のごごきとご挨拶申し上げます。

二十五日の北村会長の約のたの申請書もご検討下さい。また、ご挨拶の御返事致します。是非、お褒め申し上げます。ご下さい。

和賀井敏夫